

# 石巻地方 命懸に訪日客対応

## 川 ジェスチャーも重要 受け入れに備え研修会

外国人観光客とのコミュニケーション方法などを学ぶ「インバウンド対応実践研修会」（県東部地方振興事務所など主催）が3日、女川町まちなか交流館で開かれた。

町観光協会や飲食店などから関係者約20人が参加し、海外の人は意思の疎通を求めている。日本語で話してもジェスチャーでもいい」と強調。外国人の対応でや



阿部さん(左)の講話を聞く参加者たち

### 東松島

## 外国人が座禅を体験 着物姿で自分見つめる

東松島市のNPO法人「いろどり・みんなのみち」は3日、同市で在日外国人を対象にした観光モニターツアー「着物deインバウンドツアー」を開いた。

石巻市在住のアメリカ、マレーシア、台湾などの外国人8人が参加。鮮やかな着物やはかま姿に着替え、東松島市の観光を楽しんだ。

参加者たちは同市宮戸の観音寺で座禅を体験。斎藤卓也副住職50が「座禅には心を整える意味がある。精神統一の機会にしてほしい」と説明。合掌や手足の組み方などの作法を学んだ後、壁に向かって15分間座禅に挑戦した。

宮戸島周辺の観光やカキの養殖棚を見学したほか、奥松島縄文村歴史資料館で勾玉作りに取り組んだ。

ペルー出身の介護職員千葉ジョバンナさん(仮)は「着物を初めて着ることができうれしかった。観光で学ぶことも多く楽しかった。座禅では、自分を見つめ直す時間が大切だと感じた」と話した。

ツアーは2019年度東松島市復興モデル事業の一環として、地域資源を活用した観光コンテンツの発掘や調査を目的に実施した。



和装で座禅を体験する参加者

演習では、飲食店や宿泊施設などでよく使う言葉、日本語、英語、韓国語、中国語の4カ国語と絵で示した「多言語版指差しシート」を使って復唱とジェスチャーで確認した。

外国人に向けた情報発信についての講話では、会員制交流サイト(SNS)をこまめに更新することの必要性を助言した。

町内に勤務する女性55は「外国人の方が来たときに気持ちよく思ってもらえる対応をしたい。日本語でいいとのことなので、まずは話し掛けてみようと思」と話した。